

ふるさと 故郷

学校だより

No. 1 3

八月六日平和を願う日

私（校長）の祖父は、昭和十九年十一月十七日に済州島沖の海戦にて戦死しました。当時三十四歳でした。輸送船で朝鮮半島からフィリピンに向かうところだったと聞いています。戦死者の遺品や遺骨は、遺族に届けられることになっていましたが、祖父は撃沈された船とともに海底に沈んでしまいましたので、遺骨はもちろん遺品もありません。父は当時七歳。恵良駅まで白木の箱を受け取りに行き、空の木箱を持って帰ったそうです。

さて、八月六日は世界で初めて広島で原爆が投下された日です。子どもたちは登校後、広島平和記念式典をテレビで視聴し、原爆が投下された午前八時十五分には防災無線のサイレンとともに黙とうしました。



被爆体験交流証言講話

全校参加で行った平和集会に、長崎から講師をお招きしました。講師の中村幸博さんは被爆者の森田博満さん（被爆当時十歳）から体験を聞き取り、若者に伝える「被爆体験交流証言講話」を行っています。

森田さんは、空襲警報を聞いてお兄さんと屋外から家に駆けこもつとしていた時に被爆したそうです。森田さんは戸口の内側にちようど駆け込んだところで原爆がさく裂したため、熱線を浴びず一命をとりとめました。しかし、戸口の外にいたお兄さんは熱線を浴びて全身に大やけどを負い、亡くなったそうです。

その後に森田さんが見た町の惨状、死体の山、火葬の様子など、紙芝居風に絵を交えながらお話してくださいました。



図書への借り換えもしました

登校日である八月六日に、夏休み用図書の借り換えもしました。一学期末に夏休み用に借りた本を読み終えている子が多く、新しく借りる本を選んでいきました。

外で元気に体を動かすことも大事ですが、この猛暑です。涼しい場所での世界に没頭することも、よい体験となると思います。皆さんも、熱中症対策として読書をしてみてはいかがでしょうか。



※公民館の掲示板に東飯田小フォトニュースを掲示しています。お立ち寄りの際には是非ご覧下さい。

※東飯田小学校のホームページでも情報を発信しております。是非こちらもご覧ください。

文責 校長 今永克明